

## 双葉苑と入所者様

### 安全をまもる

応急処置の手順も学びます。



真剣な表情で消火訓練に取り組む職員。関係機関に迅速で正確な連絡と初期消火の訓練は欠かせません。



火事や地震のとき、入所者様には不安を与えないよう説明と迅速な避難を行います

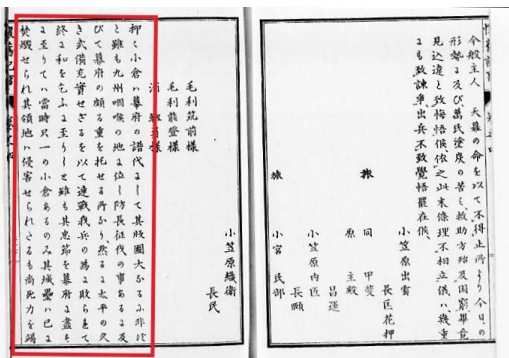
## ふたばよもやま話 (第二十八回)

### ～ “敵である小倉藩、を称えた山縣有朋～

山縣は第3代、第9代内閣総理大臣。長州藩下級藩士の子として生まれ吉田松陰の松下村塾に学び明治維新の功労者です。幕末小倉戦争の時、高杉晋作の奇兵隊に所属。第2次長州征伐で幕府軍と戦いました。九州に上陸後、企救平野を占領し田川郡香春に藩政府を移した小倉藩を追撃し、小倉南区を転戦し金辺峠に達します。しかしそこで奇兵隊は小倉藩が守る峠で大損害を受け、香春へ攻め込むことはできませんでした。

その後小倉藩と長州藩は和議を結び、戦いは終わり時代は明治となり、日本陸軍の創設、発展に大きく関与した山縣は「懷古記事」を表します。

その中で山縣は四境戦争(小倉戦争)のさい、幕府からも見捨てられ、なお長州藩と戦い続けねばならなかった小倉藩を「其忠節を幕府に尽すに至りては当時只一の小倉もあるのみ…他日徳川幕府の為に其史を修むる者あらば是を大書特書して可なり」と語り、最後まで幕府を裏切らず忠節を尽くした小倉藩を讃えています。



山縣有朋と山縣があらわした「懷古記事」

**職員紹介コーナー**  
今月は先月号に続き、4月より新社会人として双葉苑の介護職員となった木浦さんの紹介です。木浦さんは、昨年春、夏に施設実習に双葉苑で介護の技術や心得などを学びました。その中で大切なことが「利用者様の尊厳の保持」であり、それらを学ぶうちに介護ニーズに応えたいと強く思うようになり、就職を決めたということです。  
木浦さんが目指すのは「利用者様に寄り添う気持ちを大切にしながらがんばっていききたい」とのことでした。  
千里の道も一歩からという言葉がありますが、毎日一つずつできたことを積み重ね、思いやりのある立派な介護士になつてほしいと思っています。これからの成長を関係者一同見守りたいと思います。



入所者様に優しく寄り添いたいという木浦さん。今後の成長が楽しみです。

### 面会再開のお知らせ

6月16日月曜日より中学生以上の方の面会を再開します。**ご希望日時の一週間前**には電話等でご連絡ください。なお、**面会は10分程度、2～3名程度**とさせていただきます。感染症予防対策としてご不便をおかけしますが、なにとぞご理解の上ご協力をお願いします。

### 今月の予定 (6月)

#### 石橋医院回診 (毎月曜日)

2日、9日、16日、23日、30日

#### ますゆき皮膚科回診

5日(木)

#### 小倉北歯科回診 (毎火・木曜日)

3日、5日、10日、12日、17日、19日、24日、26日

#### ビューティヘルパー

18日(水)

#### 運動会

30日(月)

【編集雑記】▼先日、水戸徳川家と黒田秋月藩のご当主に会う機会があった。世が世ならまさに「お殿様」であり、明治になると華族となった家柄である。水戸家ご当主は、映画でおなじみの水戸黄門の直系であり、感慨深いものがあつた▼このお二人、いま全国で行われている「全国藩校サミット」にかかわりの深い方である。藩校とは江戸時代、藩士の子弟教育のために造られた学校であり、その藩が持つ思想の元、武芸はもちろん、儒教などを中心にした教育が行われた。元々は士分の子弟教育だったが、のちに身分を越えた入学が許され、多くの優秀な人材が輩出された▼福岡県内で見ると高校は、修猷館高校、育徳館高校、明善高校、伝習館高校などがあり、いずれも名門である。小倉藩にも「思永館」という藩校があつたが、幕末の小倉戦争の際焼失、移転先の香春町に思永館を再建し、施設が手狭なので赤村や福智町に分校を設け、人材教育に当たつた▼時代は明治となつたとき、小倉藩(香春藩)は香春に残るか、手狭な香春より新天地に移転するか選択を迫られ、大激論の末京都都豊津に移転することが決まり、豊津藩として新しいスタートを切つた。その際、従来の藩校であつた思永館から育徳館と改名した。改名の理由は諸説あり、今後の研究が待たれるが、香春にあつた時代、高等教育が思永館、初等教育が育徳館とすみわけされていた時代があつたという説もある▼小倉北区には、思永中学という中学校があるが、これはもちろん藩校にちなんだ名前と思われる。香春町には町内の小中学校を統合、義務教育学校となつた学校が香春思永館と命名された。香春の地にかつての藩校があつたという故事にちなみ命名された▼戦後、教育は大きく変わったが、昔も今も変わらない考え方、人づくりは教育からということだろう。水戸の徳川さんが「国造りは人づくりから」という趣旨の言葉が重く響いた。